

日本組織適合性学会
平成 16 年度 決算報告書

自 平成 16 年 4 月 1 日
至 平成 17 年 3 月 31 日

(収入の部)	予 算	決 算	差 異
会 員 年 会 費	3,200,000	3,519,300	319,300
学 会 誌 広 告 費	1,000,000	580,000	-420,000
学 会 誌 販 売	150,000	76,405	-73,595
寄 付 (T F B)	500,000	500,000	0
利 息	500	28	-472
当 期 収 入 合 計	4,850,500	4,675,733	-174,767
前 年 度 繰 越 金	6,862,126	6,862,126	0
収 入 合 計	11,712,626	11,537,859	-174,767

(支出の部)	予 算	決 算	差 異
大 会 援 助 金	2,000,000	2,000,000	0
学 会 誌 作 成 費	2,500,000	2,879,925	-379,925
TFB 賞 金	500,000	500,000	0
旅 費	100,000	0	100,000
通 信 費	250,000	301,055	-51,055
会 議 費	50,000	4,640	45,360
事 務 委 託 費	0	163,000	-163,000
事 務 費	250,000	147,484	102,516
当 期 支 出 合 計	5,650,000	5,996,104	(448,620)
次 期 繰 越 金	6,062,626	5,541,755	520,871
支 出 合 計	11,712,626	11,537,859	174,767
当 期 収 支 差 額	-799,500	-1,320,371	520,871

(繰越内訳 振替口座: 805,000 普通預金: 410,614 現金: 101,818)

平成 16 年度日本組織適合性学会会計を監査し、適正であったことを認めます。

平成 17 年 9 月 30 日 日本組織適合性学会 監事

片桐 一
笹月 健彦

日本組織適合性学会
平成 16 年度 認定制度決算報告書

自 平成 16 年 4 月 1 日
至 平成 17 年 3 月 31 日

(収入の部)	予 算	決 算	差 異
QC ワークショップ	600,000	430,000	170,000
講習会参加費	5,000	154,000	-149,000
申請料	80,000	105,000	-25,000
利息	30	23	7
当期収入合計	685,030	689,023	-3,993
前年度繰越金	3,746,280	3,746,280	0
収入合計	4,431,310	4,435,303	-3,993
(支出の部)	予 算	決 算	差 異
事業経費	100,000	75,915	24,085
実技研修費委託費	50,000	0	50,000
会場費	100,000	0	100,000
講師費	200,000	80,000	120,000
QC ワークショップ	200,000	306,106	-106,106
会議費	60,000	19,632	40,368
旅費	200,000	47,820	152,180
通信費	20,000	34,400	-14,400
事務費	30,000	4,242	25,758
当期支出合計	960,000	568,115	391,885
次期繰越金	3,471,310	3,867,188	-395,878
支出合計	4,431,310	4,435,303	-3,993
当期収支差額	-274,970	120,908	-395,878

(繰越内訳 振替口座: 168,000 普通預金: 3,698,751 現金: 437)

平成 16 年度日本組織適合性学会認定制度会計を監査し、適正であったことを認めます。

平成 17 年 9 月 30 日

日本組織適合性学会 監事

片桐 一

笹月 健彦

日本組織適合性学会誌 MHC の投稿規定

1. 投稿規定

1.1. 原稿様式

提出原稿がそのまま電算写植で印刷できるように、原稿は全て、コンピューターのフロッピーディスクとA4サイズでプリントアウトしたものの両者を提出する。ソフトは MSWord とする。字体、サイズ、行の字数、行間、などの体裁は自由とする。また、図表については、写植でそのまま掲載できるものを提出するが、挿入箇所を本文に指定する。図については天地を明示する。印刷の際に、縮小または拡大する場合があるので、考慮すること。また、図表の題や説明はワードで、本文とは別頁に添付する。なお、掲載された論文等の著作権は、日本組織適合性学会に属し、インターネットを通じて電子配信されることがあります。

1.2. 原著論文

会員からの投稿を原則とするが、編集委員会が依頼することもありうる。日本語、英語を問わない。最初の一頁はタイトルページとし、タイトル、著者名、所属、脚注として代表者とその連絡先(電話、FAX、E-mail、郵便番号、住所)を記す。タイトル、著者名、所属は次の様式にしたがう。

Nucleotide sequence for a Cw8 subtype, Cw8N, and its association with HLA-B alleles. Fumiaki Nakajima¹⁾, Yoshihide Ishikawa²⁾, Junko Nakamura¹⁾, Toshio Okano¹⁾, Chieko Mori¹⁾, Toshikazu Yokota¹⁾, Ling Lin^{2) 3)}, Katsushi Tokunaga¹⁾ and Takeo Juji¹⁾

- 1) Kanagawa Red Cross Blood Center, Kanagawa, Japan
- 2) Department of Research, Japan Red Cross Central Blood Center, Tokyo, Japan
- 3) Department of Transfusion and Immunohematology, University of Tokyo, Tokyo, Japan

HLA-Cw8 のサブタイプ “Cw8N” の塩基配列および

HLA-B 座との関連分析

中島 文明¹⁾, 石川 善英²⁾, 中村 淳子¹⁾, 岡野 俊生¹⁾, 森 知恵子¹⁾, 横田 敏和¹⁾, 林 玲^{2) 3)}, 徳永 勝士²⁾, 十字 猛夫²⁾

- 1) 神奈川県赤十字センター, 検査課,
- 2) 日本赤十字中央血液センター, 研究一課,
- 3) 東京大学医学部附属病院, 輸血部,

枚数は特に指定しないが、速報的な短報(全体で、2,000~3,000字、出来上りA4版で2~4枚程度)を中心とする。もちろん、full article も歓迎する。また、新対立遺伝子、日本人に認められた希な対立遺伝子に関する報告も受け付ける。なお、参考文献(References)の記載については、下記1.5を参照すること。原稿の内容は以下に従って記載し、オリジナル1部にコピー3部を添えて、編集長宛(下記3参照)に送付する。

日本語で投稿する場合、内容は二頁目よりはじめ、要約、はじめに、材料と方法、結果、考察、参考文献の順に記載する。また、要約の末尾に日本語のキーワード(5語以内)を加える。脚注は適宜、設けてもよい。本文の末尾に別項で英語のタイトル、著者名、所属(様式は上述に従う)、次の項に英語の要約と Key words (5語以内)をつける。

英語で投稿する場合、内容は二頁目よりはじめ、Summary, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Referencesの順に記載する。Summaryの末尾に英語の Key words (5語以内)を加える。脚注は適宜、設けてもよい。本文の末尾に別項で日本語のタイトル、著者名、所属、次の項に日本語の要約とキーワード(5語以内)をつける。

1.3. 総説、シリーズその他

編集委員会からの依頼を原則とするが、会員からの投稿も大いに歓迎する。日本語を原則とする。タイトル、著者名、所属は上記1.2.の通りにしたが、要約と要約の末尾に日本語で5語以内のキーワード

を添える。英語で投稿する場合にも、日本語でタイトル、著者名、所属、要約、5語以内のKeywordを加える。その他の体裁は自由とするが、構成がいくつかの章、節などから成る場合には、次の番号に従い、適当な見出しを添える。

1. 2. 3. 4. ……

1.1. 1.2. 1.3. ……

1.1.1. 1.1.2. 1.1.3. ……

脚注は適宜、設けてもよい。なお、参考文献(References)の記載については、下記1.2.を参照すること。

1.4. 校正

校正は編集委員が行い、特別な場合を除き、執筆者は校正を行わない。

1.5. 参考文献

参考文献は、本文中に数字で、例えば(3)、の様に表示し、末尾にまとめて、次のようなスタイルで記載する。ただし、著者名、または編集者名は、筆頭3名まで記載し、以下は省略する。

1. Komatsu-Wakui M, Tokunaga K, Ishikawa Y, *et al.*: Wide distribution of the MICA-MICB null haplotype in East Asian. *Tissue Antigens* **57** (1): 1-8, 2001.

2. Tokunaga K, Imanishi T, Takahashi K, *et al.*: On the origin and dispersal of East Asian populations as viewed from HLA haplotypes. *Prehistoric Mongoloid Dispersals* (eds. Akazawa T, Szathmary EJ), Oxford University Press, p. 187-197, 1996.
3. 徳永勝士, 尾本恵市, 藤井康彦ら: HLA に連鎖した遺伝標識に関するハプロタイプ調査, 移植, **18**: 179-189, 1983.
4. 徳永勝士, 大橋 順: 疾患遺伝子の探索. わかる実験医学シリーズ「ゲノム医学がわかる」(菅野純夫編), 羊土社, p. 48-55, 2001.

2. 別刷

原著論文については、別刷は有料とする。その費用は部数、頁数による。

3. 原稿送付先

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院医学系研究科
人類遺伝学分野
日本組織適合性学会誌 MHC
編集長 徳永 勝士

TEL: 03-5841-3692

FAX: 03-5802-2907

E-mail: tokunaga@m.u-tokyo.ac.jp

編集後記

移植医療, HLA タイピング技術, 抗 HLA 抗体の臨床的な意味, HLA と関連するゲノムの多様性など, 会員の皆様のかかわる領域は, HLA を中心に多岐にわたっていますが, その HLA の起源はヒトにいたる進化の過程で, いつ頃にでき, どのように変わってきたのでしょうか? 本号より総説「MHC の比較ゲノム」シリーズが始まります。昨年(平成 17 年)の 4 月 15 日に理化学研究所(埼玉県和光市)で「動物 MHC のダイナミズムと機能—魚からヒトへ」と題してひらかれたシンポジウムで議論された MHC のゲノムの種間比較研究の話題を, 広く会員の皆様に提供できるようにシンポジウムで講演された先生方に解説いただく企画です。MHC の進化を解明するという純粋に学術的な問題とともに, 生物資源として有用な動物の利用に際してその動物の MHC の特徴を知ることがいかに重要であるか, わかってくることでしょう。日頃は HLA とだけ付き合っている方も, その親戚である動物の MHC がどういう風にできあがっていて, どんな働きをしているのかという研究の結果に触れてみてください。比べることで HLA についても何か新しい見え方がするかも知れません。 安波 道郎

「MHC」バックナンバー

一冊 ¥2,000 にて購入できます。学会事務局までお問い合わせ下さい。なお在庫僅少の号もありますので, 万一品切れの際にはご容赦ください。

入・退会, 所属・住所・連絡メールアドレス変更

各種の申請は, 学会事務局で受け付けます。

日本組織適合性学会事務局

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 2-3-10

東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子病態分野内

電話 03(5280)8054

FAX 03(5280)8055

電子メール jshijimu.tis@mri.tmd.ac.jp

日本組織適合性学会ホームページ

学会活動に関する情報や HLA 遺伝子の塩基配列情報が利用できます。

<http://square.umin.ac.jp/JSHI/mhc.html>

<http://jshi.umin.ac.jp/mhc.html>

MHC

Major Histocompatibility Complex

Official Journal of Japanese Society for Histocompatibility and Immunogenetics

2006 年 1 月 31 日発行 12 巻 3 号, 2006

定価 2,000 円

発行 日本組織適合性学会(会長 木村 彰方)

編集 日本組織適合性学会編集委員会(編集担当理事 徳永 勝士)

平成 8 年 7 月 24 日 学術刊行物認可

日本組織適合性学会事務局(事務担当理事 十字 猛夫)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-3-10 東京医科歯科大学難治疾患研究所分子病態分野内

印刷・研究社印刷株式会社

〒352-0011 埼玉県新座市野火止 7-14-8